

スペインの画伯と交流

ひまわり、万江 保育園園児 40周年絵画展前に

人吉市瓦屋町のひまわり保育園(松本美恵子園長)に9日、スペインからフランシスコ・ポッシュ画伯とピラル・テリ画伯夫妻が訪れ、園児と交流した。夫妻は、11日から13日まで同市上青井町のホテルサン人吉で開かれる同保育園の創立40周年記念と熊本地震復興チャリティー企画「現代国際巨匠絵画展(本社など後援)に合わせて人吉市へ。

同保育園の年長児18人と、同じ社会福祉法人松美会が運営する山江村の万江保育園の年長児10人も参加して卒園旅行の思い出や森をイメージした絵を夫妻と一緒に描いた。画材は日ごろ園児が使っている絵の具やクレヨンで、夫妻は作品の世界観に合わせて魚や猫などを描き、通訳の五十嵐良子さんを介したやり取りや身ぶり手ぶりで園児と共に2



園児と一緒に絵を描くフランシスコ・ポッシュ画伯

枚の大作を完成した。豊永裕菜ちゃん(6)は「画伯夫妻は、優しくて、一緒に絵を描けて楽しかった」、愛瀬美希ちゃん(6)は何回も練習したら上手になると教えてもらった」とにっこり。ポッシュ画伯は「子どもたちとの交流や共同作業は新鮮。緊張が解け、自分の世界を表現してくれ、私たちも

楽しめた」と話していた。なお、両保育園の作品も絵画展に展示。入場無料、午前10時から午後6時までで、夫妻のサイン会もある。販売収益は熊本地震の被災地への義援金や同保育園の子育て支援事業などに活用される。

スペインの画家 山江村に絵寄贈

人吉市での絵画展のため来日しているスペインの画家、フランシスコ・ポッシュさんとピラル・テリさん(66)が10日、山江村の内山慶治村長を訪ね、テリさんの絵1点を寄贈した。夫妻は同市上青井町のホテルサン人吉で11



山江村に絵を寄贈したフランシスコ・ポッシュさん(左)とピラル・テリさん(中央)夫妻。右は内山慶治村長=同村

13日に開かれる「現代国際巨匠絵画展」に出品。絵画展を企画した同市の社会福祉法人が同村の万江保育園の運営を引き受けて10年を迎えたことから、村に贈ることになった。夫妻は、25年前から毎年のように来日しているという親日家。贈った作品は「友達と一緒に」と題された2匹の猫の絵で、裏にテリさんが「山江村様のために私の親愛の情と感謝を込めて」とサイン手渡した。内山村長は「村民に広く鑑賞してもらえような目立つ場所に飾りたい」と話した。

(小山真史)